[前部門長挨拶]

部門長退任のご挨拶

2013 年度(第 91 期)部門長　池森　寛(西日本工業大学)

第91期部門長を務めさせて頂きました池森寛です．副部門長の高田一先生、幹事の佐々木直栄先生，運営委員会の皆様，さらに総務委員の皆様に支えられながら，役目を終えることができました．まずは皆様に厚くお礼申し上げます．

我が部門の目的の最初にあります「人と技術と社会の懸け橋となる」活動，さらにもう一つの標語に「技術と社会の関連を巡って，過去から未来を尋ねる」活動があります．後者は空間だけでなく時間的拡がりもある言葉と思っています．過去は技術史・技術継承関連，現在は技術者倫理とイブニングセミナー関連，そして未来は若い人々への技術教育関連，まさにこれら一連の活動のことが謳われていると思われます．この一年，これらの各活動に少しでも役立てたか忸怩たる思いがあります．

地方の活性化を意図として始められた部門講演会・見学会は事前の準備にお骨折り頂いた皆様のご努力もあり，発表件数も参加者も増えました．機械学会最大の文化事業といえる機械遺産認定活動も前年にも増して多くの報道機関に取り上げられて学会のPRにも貢献．イブニングセミナーは170回を越えると共に，地方開催という新たな試みも行われました．また，このセミナーの一部の内容で戦争と技術の問題をどのように考えて行くかという問題提起もありました．さらに，技術者のための技術者倫理セミナー，工学教育のためスターリングエンジン競技会・発表会や新☆エネルギーコンテストなど各関連の企画活動も工夫が凝られ活発化してきています．

このように各種活動は少しずつ良い方向に向かっていると確信しています．今回部門長としてこれらについていろいろ勉強させてもらいましたが，この程度で良いだろうと思われる問題はなく，また，様々な要素が複雑に絡み合い，すぐに解を見つけ辛い問題もあり，灰色の結論で対応した問題もあったと思っています．しかしながら，これらの問題を考えること，考え続けること，そして少しずつ工夫して行くことが重要と思っています．

部門として社会へ何をどのように発信していくかは，これからますます大切な問題ですが，それと同時に，現代の社会が抱える問題にアンテナを張って，社会の声を聴くこと，普通の人の目線で技術をみてみること，また技術は理性的にみなければいけませんが，たまには情緒的(技術には人が関わり、風俗習慣によっても異なる部分もあります)な眼でみること，さらに女性の眼でみてみることも(女性を増やすことが必要)，わが部門の果たせる役割ではないかと考えています．

これから新部門長のもとにポリシーステートメントも作られて新たな展開も行われると思います．新部門長の高田一先生(横浜国立大学)をはじめ，92 期の委員の皆様どうぞよろしくお願いいたします．技術と社会部門の登録の皆様の多くは，ご自分の専門を抱えながらの当部門での活動で大

変と思いますが，一層のご協力よろしくお願いいたします．

歳を取ると毎年一年間が短く感じますが，私にとってこの一年は最も長い一年となりました．今後も何か部門のお役にたてることがあれば，幸いと思っております．

最後になりましたが，折に触れご支援とご助言を頂きました事務担当の曽根原雅代様に厚くお礼申し上げます．

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター:　http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html

---

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.31

(C)著作権：2014　一般社団法人日本機械学会　技術と社会部門